

# まつもと市民・健康を考える通信

## 健康都市の市民とは？×ヘルスケア産業市民共創を考えるワークショップ報告

発行：松本地域健康産業推進協議会

vol.1

**誰** にとってもあたり前に大切だからこそ捉え難い。深く考えるほど難しいような気がしてくる言葉……。そんな健康をどう考え、どう日常生活に反映させるか。そんなことを考えるための、松本市民によるワークショップ（以下WS）が、去る10月8日、19日の2日間で行われました。商店主、建築家、医療関係者、まちづくりに関わる人、町会関係者、公務員など幅広い分野の市民の方々が5～6人の3グループに分かれて話し合いました。

2日間のWSは、健康寿命を延伸しよう！ではなく……。 「健康寿命が延伸してしまう環境を創造するには？」、「健康寿命が延伸してしまう人になるには？」、「この2つをサポートするヘルスケアビジネスの市民共創環境とは？」という視点を大切にしています。

本通信では、下記のワークショップ内容の①6つの健康チェックから松本の強みと弱みを探る、②松本のライフスタイルや意識を捉えて健康や不健康との関係性を探る、③共創体験WS④市民共創のためのヘルスラボについて考えるの3つのフェーズに分けてWSの結果をお伝えいたします。

WSの結果が、読者のみなさんにとって健康や健康のための市民共創について様々な視点から考えるきっかけになればと思います。



### （WS●1日目）

- 1.....6つの健康チェックから松本の強みと弱みを探る
- 2.....ヘルスケア分野でのビジネスアイデア共創を体験する

### （WS●2日目）

- 3.....松本のライフスタイルや意識を捉えて健康や不健康との関係性を探る
- 4.....市民共創のためのヘルスラボについて考える

## 健康と社会参画の密接なつながり

解決の難しい様々な地域課題があるからこそ、日ごろから地域の未来を考え行動するための対話が必要となっています。

一方、自分の住んでいる場所のことは、慣れのメガネで見えてしまい知っているようでなかなか知らないこともよくあることですが、課題を適切に把握するためには、まず自分の住んでいるまちのことを知る必要が

あります。

身近な人たちや自分とは違った視点を持っている人たちと一緒にワークショップを行い、対話をしてみると様々な気づきがあり、楽しみながら自分のまちを知ることができ、参加者とまちの課題を共有することができます。

まちの課題を共有できると、解決を考える人のつな

健康ってなに？

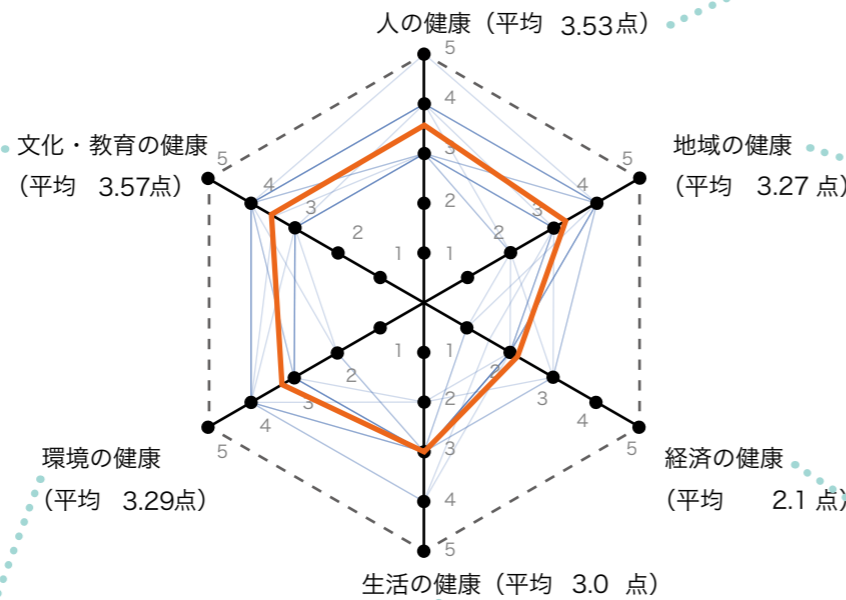
phase 1

# 6つの健康度をチェックして 松本の強みと弱みを探る

**松**本市は「健康寿命延伸都市・松本」の創造に向けて、「6つの健康」を目指しています。WSではこの6つの健康について直感的に5点満点で評価し、その理由を考えながら松本の強みと弱みに対する意見を出し合いました。

評価が良い悪いということではなく、この評価につながった原因のメカニズムはどうなっているのだろうか？ということを描き出しながら、これから何ができるのか？何をしていけばよいのか？を考え行動するきっかけになればと思います。みなさんも、気になるコメントがあったらちょっと深掘りして考え、松本の強み/弱みから見え隠れする課題に対して、自分だったらどのように解決できるだろうか？とぜひ考えてみてください。

**松本市の健康チェック 総合平均点 3.13点**



**教育・文化の健康に対する松本の強み / 弱み**

コンサートや演劇などの公演が多く、文化性が高いイメージを持たれていること、社会教育活動が盛んなことなどが松本の強みと捉えられています。また、OMFや松本大歌舞伎の存在は大きいですが、将来が心配といった意見もありました。

イベントが多いことはプラスだけでも、文化の薫りが低いといったことは弱みであるとの意見も出されました。

**環境の健康に対する松本の強み / 弱み**

自然環境に恵まれている、山や川、湧水の存在について、多くの参加者から意見が挙げられ松本の大きな強みと捉えられています。

一方、廃棄物問題など循環型社会や交通環境については、環境の弱みとする意見がありました。また、自然に恵まれているが大事にしていない、景観意識が薄いと人側の課題も弱みとして挙げられています。

**生活の健康に対する松本の強み / 弱み**

生活の健康については、松本として評価することはなかなか難しかったようです。

生き甲斐を持っている人が多いことや、自由な雰囲気を感じる街、イベントの多さや、顔見知りが多い環境といったことが生活の強みと捉えられています。

一方、マンション住民等との地域の繋がりが弱い、若者のチャレンジを後押しする力が弱いといったことが生活の健康に対する弱みとして捉えられています。

**地域を知る・課題を共有する**

**ワークショップのすすめ**

解決の難しい様々な地域課題があるからこそ、日ごろから地域の未来を考え行動するための対話が必要となっています。一方、自分の住んでいる場所のことは、慣れのメガネで見えてしまい知っているようになかなか知らないこともよくあることですが、課題を適切に把握するためには、まず自分の住んでいるまちのを知る必要があります。

身近な人たちや自分とは違った視点を持っている人たちと一緒にワークショップを行い、対話をしてみると様々な気づきがあり、楽しみながら自分のまちを知ることができ、参加者とまちの課題を共有することができます。まちの課題を共有できると、解決を考える人のつながりも増えていくことになります。

最近では、地域のことを考えるワークショップが多く開催されるようになってきました。みなさんも、気軽に参加してみてください。

**人の健康に対する松本の強み / 弱み**

運動習慣のある人が多い。元気な高齢者が多く見られることや医療・福祉関連の社会インフラが比較的しっかりしていること、運動をする人が多いことが松本の強みと捉えられています。

一方、自動車依存度の高さや、公共交通を使いにくい環境が、高齢者にとっても気軽に出かけ、日常的に歩くライフスタイルを妨げているという意見が多くあり、人の健康に対する弱みとして捉えられています。

**地域の健康に対する松本の強み / 弱み**

近隣住民とのつながりや、町会などの町のコミュニティ、地域活動や公民館活動の存在が、地域の強みと捉えられています。

一方、公民館や地域の活動への参加者の広がりが弱いこと、若い人の地域活動への参加が少ないことや、ハングリーさに欠けるといった意見が地域の弱さと捉えられています。

**経済の健康に対する松本の強み / 弱み**

松本には魅力がたくさんあることや、商都と感ぜられるといったことが強みと捉えられています。

一方、経済の弱みとして、一番意見が多かったものは中心市街地の弱体化という意見です。新規産業やイノベーションがあまり起こらない、地場産業が弱い、若者の活躍が弱い、空き家が多くなっている、平地の駐車場がたくさん、買い物に困っている人がいるなど、現在のまちの状況やトレンドを弱みと捉えている意見が多く出されました。

一方、例えば、駐車場は将来の土地利用のストックと考えられる、活かしきれていない資源をきちんと活用するなど現在の弱みは、人次第でポジティブな可能性に変換できる大きなチャンスといった意見も多く出されました。

- 1..... 人の健康  
「だれもが健康でいきいきと暮らすまち」
- 2..... 地域の健康  
「安全・安心で支え合いの心がつなぐまち」
- 3..... 経済の健康  
「魅力と活力にあふれたにぎわいを生むまち」
- 4..... 生活の健康  
「一人ひとりが輝き大切にされるまち」
- 5..... 環境の健康  
「人にやさしい環境を保全し自然と共生するまち」
- 6..... 教育・文化の健康  
「ともに学びあい人と文化を育むまち」

健康寿命延伸都市・松本の創造に向けて、松本市は6つの健康を目指している！



# 松本市民によくありそうなライフスタイルや意識。不健康につながる？健康につながる？

2日目のワークショップでは、松本によくありそうなライフスタイルや意識に対して、「健康都市として市民や都市環境が備えるべき6つの仮説条件」を参考にして、不健康につながるものと健康につながることを話し合いました。6つの仮説条件は、健康と人とのつながりや社会参画がとても密接に関係していることを踏まえて考えたものです。

WS参加者の属性から、「松本の人に共通」「商店主」「会社員」「公務員」「高齢者」の5つのカテゴリーを設定し、松本によくありそうなライフスタイルや意識について話し合いまとめていただきました。もしこれらのカテゴリーに属していたら、そこにかかれた意見はあなたのライフスタイルと似通ったものでしょうか？みなさんもチェックしてみてください。

不健康につながるとされた意見が数多くありますが、不健康につながると挙げられた内容の原因のメカニズムを的確に捉え解決することこそ、健康寿命を延ばすことにつながり、ビジネスにつながるチャンスがそこにあるはず。不健康につながるとされた意見は単なる批評と捉えるのではなく、ポジティブに捉えチャンスにしていけば、健康寿命が伸びるばかりだけでなく、松本の魅力がさらに高まることでしょう。

今後、健康寿命が伸びてしまう環境を創造するためにも、松本のライフスタイルや意識をさらにリサーチしたり、率直に話し合う機会、解決策を色々な人と考える機会を設けると多様なイノベーションが生まれそうです。

人が環境をつくり環境が人をつくる

## 健康につながる松本の人の特性に対する意見

- 近所づきあい
- 地域に顔見知りがある
- 公園など子連れが行ける場所（アルプス公園など）
- 定年がない、生涯現役の人が多く
- 毎日色んな人と関わる機会がある
- ある程度働き方（時間とか）が自分で選べる
- 流行を追うより息の長い良いものを扱う「こだわり」がある
- Uターン、Iターン系の商店主は行動的外交的に感じる
- 終業後に趣味や運動の時間が取りやすい
- 終業後に同僚と飲みに行ける
- いろいろな市民とふれあう機会がある
- エコ通勤により電車やバスと一緒に歩いて通勤している
- 趣味が伸ばせる
- 朝起きるのがかなり早い
- 朝からウォーキングしている、ウォーキングが日課になっている人が多い、ウォーキングする人よく見かける
- 運動量が多い
- 庭仕事を楽しんでいる
- 農業を長く続けている
- 孫と楽しむ
- 活動時間を自由にとれる

## 健康につながる松本の環境特性に対する意見

- ハイキングできる環境
- 他カイベントで乗れるものは好き
- 祭り好き→年に1回の外向性
- 歩きやすいまち？
- 商店主や店員と話ができる
- ちょっとした時間に外に出ればリフレッシュできる景色がある
- 趣味に夢中になれる環境がある
- 山雅好きが多いような気がする（生き甲斐として）
- 定時にあがり、居酒屋に行きやすい
- 街にいる、車で行きづらいので街を歩く、いろんなところに顔を出せる
- 女性のキャリア設計がしやすい
- 生涯設計しやすい
- 隣近所とのつながりが強い
- バスが安い
- 目的地まで歩く
- 趣味のサークル活動が活発
- 病院や医院がコミュニティスペース化している
- 草刈りが好き
- 地域活動に熱心
- 近くに、福祉広場があり歩くことがある。
- 自転車あれば気軽に出かけられる

## （健康都市として市民や都市環境が備えるべき6つの仮説条件）

- 1..... 日常的な人と人とのつながり・交流をもつライフスタイル
- 2..... 生き甲斐がある、志を持っている、夢を持っている、シビックプライドを持っている
- 3... ポジティブ思考と他者の幸せを考える、ジョブでもキャリア志向でもなくコーリング（天職）志向の働き方
- 4..... 慣れや先入観にとらわれない心、世界を見る自分の眼鏡を客観的に見る能力
- 5..... 体を動かす、徒歩・自転車移動が日常のライフスタイル・習慣
- 6..... 食の楽しみ・栄養

## 不健康につながる松本の人の特性に対する意見

- 実践が苦手
- 異種交流が少ない
- みんながやるからやる“自分が希薄”
- 移動に車という人が多い、徒歩5分のコンビニに車で行く、Doot to Door を車でが当たり前の認識、やはり車至上主義
- 「自分の世界」をつくり閉じこもる
- イノベーションがない（ずっといる人）
- 世間が狭い人が多い
- もともと地元で長く商売をやっている人は内向的、惰性的
- 決まった人との交流、遊び、仕事になりがち
- 運動する時間がつれない
- 朝ごはんを食べない
- 夜遅くまで仕事をして飲んで帰る生活
- 夕食が遅い時間
- コーリング（天職）志向に大きく差がある
- 『健康』をテーマに施策を作りながらなかなか自分で実践ができていない
- 夢が感じられる？
- 飲まずに帰る
- 外の情報を得に積極的に外出している？
- 仕事への情熱が感じられる人多い？
- 組織外との関わりが多い？
- 外にランチに出づらい

- 凡例……オレンジ 松本の人に共通
- 黄緑 商店主
  - 紫 会社員
  - 水色 公務員
  - 黄色 高齢者

## 不健康につながる松本の環境特性に対する意見

- 公共交通が使いづらい、バスがないから車に頼る、バスの乗り方がわからない（本数少ない、時間通りでない）
- 車中心なので自転車がこわい
- 駐輪場がないので自転車での出かけにブレーキ
- 市街地にある公園がイマイチ
- 冬は寒いので家にこもりがち
- 健診に行く時間が取れない
- 拘束時間長い
- 後継者がいない
- まとまった休みを取りにくい
- 休みがほとんどない、週2日休めない
- 店のなかにいる時間が多い、店番のため家を出にくい
- 次の世代のあり方が見えにくい、若手の育成をあまり考えられない
- 家族経営の場合体を壊すと店も開けられない（健康と経営が直結している）

- 車で通勤が多い、車で移動することが多い、通勤は車が多く混雑する歩かないストレス
- 仕事のストレス（人間関係）
- 遅くまで働かざるを得ない、飲みに行く時間も持てない
- 転勤や異動などでライフスタイルが大きく変化してしまう
- 会社にスポーツ・サークルなどが少ない
- 休日に郊外の大型店へ車で出かける
- 平日が忙しいと休日に出かけたり地域活動に出にくくなる
- 会社外との交流が希薄（子どもがいれば別）

- 外への情報のプレゼンが苦手！？
- リスクを負わない
- 外部との交流が少ない
- いい仕事をしたくなるモチベーションを生む組織文化？
- 異動がミッションや人材育成につながっている？

- まちを楽しみに出かける場所が少ない
- 年寄りの持つノウハウを社会に出す機会・場（が少ない）
- 年寄りが集まる場所があまりない
- コンビニや宅配の弁当ばかり食べている
- 重労働の農作業を長くやっていた人は年取ってから膝を悪くしがち
- 歩道が少なく歩きにくい（手押し車とかで）
- 車が運転できなくなると外出しにくい
- 移動の為に使い易い交通機関が必要（今は余りない）
- 日影やベンチが少なく未だに車中心の道路が多い
- 自転車で出掛けたいけれど車通りがこわいので結局出かけなくなる



## phase3 市民共創ワークショップ 課題を共創で解決するアイデアを出す

**共**有された課題から、アイデアを共創し解決策を生み出す方法は様々ですが、今回WS 1日目に行ったNPO法人ミラック代表理事の西村勇哉さんによる共創体験WSの紹介をします。

今回は、健康につながってしまう、不健康からは遠ざかってしまうサービスという視点で、「隠れた健康のデザイン」をテーマに、40分という短い時間でアイデア共創体験を参加者の皆さんに行っていただきました。

### 「隠れた健康をデザインする」アイデアのWSでの1例



松本 花子さん  
女性 35歳  
出身地：長野市

■設定されたペルソナ  
 居住場所：松本市大手（中心市街地）  
 家族：夫・子2人（男10歳・男8歳）  
 年収：世帯550万円  
 仕事：パート（事務職）  
 趣味：テニス  
 友人：ママ友・長野の学校の友達・仕事の友人・趣味の友人  
 休日の過ごし方：子どものサッカー、家事

### 共創グループワークの流れ

- 1..... サービスのテーマを設定する  
(今回は「隠れた健康のデザイン」)
- 2..... ペルソナ(人格/ライフスタイル)を設定して、  
具体的なライフスタイルイメージを持つ
- 3..... 設定したペルソナに対して、テーマに沿った  
サービスのアイデアを創出する
- 4..... 良さそうなアイデアを選び、  
掛け合わせることで  
より良いサービスを提案する

### ■松本花子さんに対する「隠れた健康をデザインする」アイデア

- 高齢者による子ども支援
- 30分100円の喫茶店
- 車付のストレッチ器具
- 買い物の代行
- ヘルシー観光案内(歩きたくなるアプリ)
- テーマ性のあるまち・お店案内
- ヘルシーライフインターン
- ご近所さんお手伝いプロジェクト
- 料理メニューの共有
- 週1回の減塩会
- 商店やスーパーで健康チェックできる
- 歩数で割引
- 歩数でアフリカに寄付できる仕組み

### ■アイデアを掛け合わせて、より良いサービスを提案

上のアイデアで✓のついた4つを掛け合わせ、「濃い味付けが好きなお子さんを心配していた松本花子さん。歩いて買い物に行く」と、商店では子どもが好きそうな減塩メニューを教えてくださいました。メニューに必要な食材は、歩数に応じて割引があり、アフリカに寄付もできてしまうので社会貢献にも参画。今日は商店に保健師さんがいて健康チェックも受けられました。」というサービスのストーリーができました。様々なサービスを具体的にイメージし、これはいいな！というサービスへと洗練させることが大切です。

▶ **良いサービス(顧客価値)を考えたら、事業価値、社会価値をバランスよく結ぶことが課題解決のポイントです。**

## 健康につながる、不健康につながる

### ライフスタイルの課題を市民共創で解決する

例えば、「健康につながることを後押しするデザインをする」、「不健康につながるライフスタイルを改善する」という課題を設定したならば、前頁にWSで挙げられた意見などをもとに、関係しそうな個人やグループ、組織などに対して具体的なペルソナイメージをもって、みなさんもサービスや改善策を是非考えてみてください。色々な立場の人と一緒に対話を行うと、さまざまなサービスを考えることができそうです。WSで良いアイデアが出てきたら、実践できるかどうか共創においてのポイントとなります。できることはすぐにやってみましょう。

共創によって考えられたすべてのサービスが、すぐに課題の解決につながったり、ビジネスにつながるこ

とは少ないかもしれませんが、みなさんや周囲の人のライフスタイルを改善したり、みなさんの職場環境を改善するためには何をすべきかといったことが、共創WSを繰り返すことで見えてくることも多いと思います。

また、WSなどで対話を行うことで、山積する地域の問題に対して問いを深めるいい機会となります。問いを深めることにより、問題に対する原因のメカニズムが見えてくることになり、より適切な課題の設定やより効果的な課題解決を考えることにもつながります。

行政や企業だけでは、難しくなっている地域の課題解決に対して、健康だけでなく、様々なビジネスや政策、まちづくりなど様々な分野においても市民共創の必要性は益々高まりそうです。



## 松本ヘルス・ラボ始動!

**少**子高齢化や人口減少、社会保障費の増大など大きな社会的課題を解決しなければならぬ時代のなかでは、市民の人も参画してどうやって共創によって課題解決をしてゆけばよいか？ということが大切になってきます。松本市では、松本ヘルス・ラボを立ち上げ、ヘルスケアに関する市民共創環境を創造しようとしています。色々な市民の方々が知恵を出し合ったり、アイデアを交錯させてイノベーションを生み出すことで、新たなビジネスの創出をしていくことを進めるには何をすればよいか？松本ヘルスラボに対する期待とアイデアをWSでは話し合いました。ものやサービスを消費をするだけでなく社会的課題を考えながら、潜在的なニーズを色々な人と掘り起こし「市民も創るに参加する！」が広がると、ビジネスにつながるだけでなく、人に喜ばれる価値を「創る」という楽しみが増えることとなります。

### (松本ヘルス・ラボの紹介)

松本市が「健康寿命延伸都市・松本」を掲げて以来、市民の健康づくりとともに、社会的課題の解決による産業創出を目指して来ました。少子高齢社会の到来に伴い、新たな社会課題・ニーズが次々と生まれています。これらに対して多くの企業が新たな解決策を考え、地域と共にその解決をしようと考えています。

「松本ヘルス・ラボ」は、社会課題解決を考える企業と、「健康づくりのソリューション創りに参加したい!」「いつまでも健康でいたい!」という皆様を結びつけて、健康づくりと産業創出の両面を実現しようとする取組です。

### (現在の取組)

松本ヘルス・ラボの取組みに対しては国も注目し、経済産業省委託事業を受けて、仕組みづくりを進めています。

健康づくりや健康産業と一緒に創っていただく、個人の会員を募集するとともに、地域とともに健康課題、社会課題の解決を考える企業を広く募っています。

ぜひ、松本ヘルス・ラボと、健康な明日の一步を踏み出しませんか。

## 募集中!

### 健康づくりをしたい、健康産業と一緒に考えたい人を募集!

- 健康パスポートクラブ  
年会費3,000円(税込)で、年2回の健康チェック(血液検査・体力測定)の実施や健康に関するセミナー、運動講座に参加いただける、お得な会員制クラブです。
- 一般利用者(無料)  
無料のインターネットサービスの利用や健康・運動セミナーに参加できるサービスです。(一部有料)

### 健康産業を担う企業を募集!

松本地域で、市民と一緒に健康産業の創出を始めませんか？  
関心のある企業を常に募集しています。

### ■お問い合わせ先

松本ヘルス・ラボ事務局(NPO法人SCOP内)担当:矢口 松本市中央2-3-17 Tel: 0263-50-9797  
E-mail: info@m-health-lab.jp 松本ヘルス・ラボWEB URL: https://m-health-lab.jp

こんなヘルス・ラボになっただらいいな

機会や企画、拠点に対するアイデアは深掘りする  
必要がありますが、下記の①～③の要素が大事で  
あるとWSの参加者から意見が多数出ました。

## 2 ニーズ把握やアイデア共創のための 機会の提供、仕組みづくり

ニーズは一部の特別な人からではなく、市民ベ-  
ースで把握する必要があるWS（今回参加してい  
ない属性の方が参加）/ 出前WS/ 日常の対話への仕掛け

### これからすぐに出来そうな機会に対するWSアイデア

- 工場や畑などへの出張WS
- 体験談（失敗談）を聞く機会
- 主婦・会社員・高齢者の集まり小さいことを聞き出す仕掛け
- 特にクレームの収集分析の仕掛け
- 医療従事者と面白い活動をしている人を交えたWS

## 3 多様な領域・分野を横断して グループや人々の接点を生み出す

企業/ まちづくり/ 福祉ひろば/ 健康づく  
り推進員/ 退職者/ 医療従事者/ 学校・学生  
/ 看護学生/ 工業高校/ 専門性のある人/ 商工  
会/ 観光/ 健康産業協議会/ 市役所/ 大学…を  
結ぶ接点を生み出す仕掛け

#### 【松本ヘルス・ラボでやってみたい企画アイデア】

- 教室（そばうち、漬物教室、JA 等企業とコラボした教室）
- 余った野菜の加工サービス（eg. 大量にいただくきゅうりをピクルスにしておいてもらえる（有料））
- ネット社会と超高齢化社会のギャップを考え、橋渡しする仕掛け
- 行政に届く市民からの要望をオープンソースにし、企業に解を考えてもらう
- アイデアを発表する場（中小企業）  世界健康首都会議/ 福祉ひろばで気軽に情報交換できる機会
- 部品工場をつなげて製品へ  職人、手仕事するひとをつなげる  食品工場を活かして、食べ物から入る
- 中小企業がお金を出し合って情報を買う

#### 【もし拠点的な場ができるとしたら…のアイデア】

- 家族でいける、多世代が集う
- ヘルシーレストラン、ヘルシー弁当（離乳食、嚥下対応）が食べられる
- スポーツセンター（アドバイザーが運動を指導、スポ婚）を併設している
- 計測機器がある（⇒年齢・性別の市民ランキングが出る⇒改善するためのメニュー）…地区で競う（ポイント還元）
- コミュニティバス、公共機関で行くことができる
- まちなかにあって温泉もある

## 1 松本ヘルス・ラボのコーディネーター “新しい接点を生み出す人の存在”

俯瞰してみられる人（システム思考ができる人）  
/ 編集できる人/ デザインできる人（デザイン思考）  
/ 実践できる人/ アイデアとアイデアを掛算できる  
人/ 良いと思うことを「人に伝わるように伝えら  
れる」人/ 行政っぽくない感じが大切/ おせっか  
いは嫌だけど、おせっかいな人/ 信頼される人→コ-  
ディネーターの要件

**松本ヘルス・ラボ**  
健康につながる  
「サービスや製品アイデアの共創」  
「サービスや製品の改善リソース収集」  
「サービスの提供」

#### 編集後記

健康は気軽に使う言葉ですが、なかなか健康を考えることは実は難  
しいことだとワークショップを考案するうえで実感しました。大事  
なことはわかるけれども、大局的に考えようとするとなんか  
つかむのが難しい、健康もそんな概念だと思えます。しかし、ワ-  
ークショップで色々な方々の意見を聞いているうちに、だんだんと捉  
えどころがぼんやりと見えてきたような気がしています。現代は、

重い社会的課題や地域課題が山積しています。だからこそ、捉えに  
くい問題のメカニズムをわからないまま放置するのではなく、多様  
な人たちと問いを深め、本質を追求し、課題を適切に設定して解決  
していく。このようなことに市民一人ひとりも参画しなければなら  
ない時代だと感じています。私も都市計画や都市デザインという仕  
事の立場から、様々な方々と健康や共創に対する問いを深め、実践  
の機会を広げていきたいと考えています。 都市計画家 倉澤 聡

スタッフ ■ WS コーディネーター 都市計画家 倉澤聡

WS ワークショップファシリテーター (株)三菱総合研究所 人間生活研究本部 社会保障グループ 古場裕司 杉山恵

1 日目共創 WS コーディネーター NPO 法人ミラツク 代表理事 西村勇哉 執行役員 島村実希

WS 通信 ■ 編集・大輪俊江 デザイン・柏木早苗